

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

「アジア地理言語学研究」平成27年度第3回研究会

日時：平成28年2月29日（月）13:00-18:00, 3月1日（火）10:00-16:00

場所：AA 研マルチメディア会議室(304)

今回は各発表者自身による要約である(発表順)。

2月29日

海老原志穂「ミルク」に関するイントロダクション

「ミルク」を言語のテーマとして選定した理由、牧畜文化におけるミルクの重要性、非牧畜文化におけるミルクの需要の仕方、世界における牧畜の伝播の状況などについて簡単な概説を行った。言語地図と原稿の作成にあたって、意味変化がおこったかどうか、借用語、複合形式であるかどうか、「ミルク」がどの「ミルク」を指すのか(家畜の乳、母乳、豆乳など)などの記述をもりこむよう促した。

松本亮～ツングース諸語・ウラル諸語における'milk'～

シベリア北方民族は主に狩猟・漁猟のため家畜の乳を利用することがあまりないが、トナカイ飼育において利用されることがある。人間の乳と語彙的に区別することもないようである。ツングース諸語では全てに共通して”乳を吸う”問いう動詞から派生した形式が使われる。ウラル諸語においては、語派によって異なる形式を用いている。ツングースと隣接するサモエードでは、他のウラル諸語と異なりツングースと同様に”吸う”の派生を用いることから、言語接触の可能性が考えられる。

Mika FUKAZAWA, “Rice” in Ainu は「稲」を表す語形に、「穀物」と同形になるAタイプ、「米」と同形になるBタイプがあるということを示した。Bタイプは、Aタイプに「真の、本当の」という意味の接頭辞がついたものである。アイヌ社会で「米」は和人から手に入る貴重な交易品であり、「アイヌの穀物」とも呼ばれる「稗」や「粟」などとは明確に区別された。また、アイヌ語樺太方言では「稗」や「粟」のことをAタイプの複合語形で「満州の穀物」と呼ぶが、樺太の隣接言語であるニヴフ語も「黍」のことを「満州の穀物」と言うことがニヴフ語の討論のなかで明らかになった。

Mika FUKAZAWA, “Milk” in Ainu は「牛乳」という語が「牛」+「乳汁」という複合名詞で表された例を紹介した。前部要素の「牛」は日本語東北方言の「べこ」を借用したものであり、1972年の『蝦夷語集録』にアイヌ語としても記録されている。後部要素の「乳汁」は「乳」と「汁」という語形で成り立っており、同じような語構成をとるものに「目+汁」で「涙」、「草+汁」で「草露」などがあることを紹介した。質疑の中では、アイヌ語の「甘い」という語形と「乳汁」との関連性が話題となった。田村すず子『沙流方言辞典』草風館、1996によると「甘い」は、「～が～についている」という二項動詞が「乳汁」を抱合してできたものと推定されている。

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

Shinsuke KISHIE, *Milk in Japanese* と Rei FUKUI, *Milk in Korean* については要旨が届かなかった。

Takashi UEYA (ILCAA Joint Researcher, Kyoto University of Foreign Studies) , *Milk in Sinitic*

中国語において「ミルク」を表す語形は、A. *nai* (奶) 型、B. *nin* ([乳/年]) 型、C. *mama* (妈妈) 型、D. *tsa* (砸) 型、E. その他、の5つに分類することができる。これらは曹志耘主編『漢語方言地図集』、北京：商務印書館、2008に収録されている「胸」の地図とおおよそ並行した分布を示している。分布がもっとも広いのはA型で、B型が分布する東南地域を除いた中国全土で用いられている。C型とD型はA型の併用語形であり、C型がA型よりも新しい語形であることを地理的分布から示した。今回のミルクの地図はとりわけ隣接する諸言語の地図と重ね合わせることで重要である。語源未詳であるB型の*nin*語形が、*Tai-Kadai*の地図にも分布していたり、現在の中国語方言では使われていない「乳」から借用されたと見られる語形が*Hmong-Mien*に見られるなど、非常に興味深い。

海老原志穂 チベット・ビルマ系諸語における「ミルク」

532 地点の言語・方言データをもとにした分析の結果、「ミルク」に関して11の語幹が見つかった。これらの形式はすべて、チベット・ビルマ祖語をはじめとする祖形に対応がみられることがわかった。これらの祖形は、「胸」、「乳首」、「腰」などの身体部位の他、「吸う」、「しぼる」などの動作に由来するものが多くみられ、ある時期に意味変化が起こったことが推測される。質疑では各形式の通時的な順序に関する指摘などがされた。また、各語彙リストで「ミルク」として記述している語形が、「母乳」を指すのか、「家畜の乳」を指すのかが不明瞭であるという問題点も明らかになった。

峰岸真琴 A preliminary survey of Austroasiatic 'milk'

本発表では、オーストロアジア語俗の「ミルク」とその関連語彙について、その地理的分布の概要を示し、分析を試みた。データは主に、SEALANG プロジェクトにより、オンラインで公開されているモン・クメール語源辞典に基づき、ムンダ諸語については刊行されている辞典から補った。オーストロアジア語族は東南アジア大陸部を中心に分布するが、この地域では伝統的に乳製品の利用は行われていない。「ミルク」が「乳房」との両義語である言語はインドからミャンマー中部に分布する。また「汁+乳房」の複合語が広範囲に分布している。このほかに、単音節で「ミルク」を表す諸言語で、語頭子音に *kh, s, f, n* を持つものが、ベトナム北部にヴィエト諸語に集中していることがわかった。

鈴木博之 "Rice (plant)" in Asia

本発表では、第2回会合で個別に議論されたアジアの諸言語の「稲」の形式についてまと

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

めた。アジアの諸言語における「稲」を表す語彙形式は 30 を超えることが判明し、第 3 回会合で新たに追加された言語のデータも含めると 40 を超える勢いである。この点を鑑み、発表では特に異なる語族・語派に共通して認められる形式を、借用の観点から論じた。語族を越えた地図作成によって互いの関連が見いだせるのはマクロ地理言語学の特色であり、このような地図を作成することは本プロジェクトにとって有意義であることを確認した。本発表では漢語 *gu* とチベット・ビルマ**kuk* のみの地図を提供したが、発表を踏まえ、異なる語族間の借用関係についても地図を提示することが有益であることが分かった。

3 月 1 日

Mitsuaki ENDO, *Milk in Tai-Kadai* はタイカダイ語でも乳汁と乳房を表す語は基本的に同一であることを地図によって示した。まず、タイ語・ラオス語・広西のベトナム寄りなど南部では A.nom 型が分布し、それがビルマ語の *no1 um2*(この語は「乳房」のみを意味し、乳汁の意味はない)と関連するとする呉安其の説を紹介した(※下の倉部慶太氏の教示を参照)。ビルマ語の側の語構成が明瞭であり、タイ語の *nom* は更に小さい要素に分析不可能であるから、ビルマ語からタイ系南部諸語に借用されたという方向性である蓋然性が高いものの、タイ語中には通常ビルマ語からの借用語が希少である点は問題となる。また、北西部の雲南省では B.u 型となるが、この研究会でチベット・ビルマ語の発表があり、チベット語が o 型(調査者の鈴木博之氏の教示によると雲南省北部では[ua]と発音される)であることから、それに由来する可能性がある。そして東北部の広西チワン族自治区および海南島では 5 重の周辺分布が見られ、外側から C-1.ne:n 型・C-2.ne 型・C-3.ne:u 型・D-1.tsi 型・D-2.ei 型となるため、その順に旧→新の語形の交代が生じたものと推定した。この地域では ne:n 型が一番古いこととなるが、中国語の南部方言、粵語・客家語・閩語に分布する *ni:n* 型(現代粵語広州方言の *ni:n* は**nen* に由来する)が由来する漢字を持たない語であることから中国語側の形はこのチワン語に由来するものと推定した。また C-2.ne 型とその他の個別の語形である *pe6* は広西西部の中国語とチワン語の両方に近接して現れることから、共通の起源を持つ可能性がある。チワン語の D.tsi 型も広西西北部や更に北の中国語に散発的に現れ、中国語では「汁」と漢字表記され、やはり共通の起源を持つ可能性がある。以上のように、タイカダイ語の A 型はビルマ語から、B 型はチベット語から来て、C・D 型や個別の語形は中国語の隣接する方言の出自となっているようである。このようなことはそれぞれの語族内だけを見ていたのでは全く分からないことであり、語族を超えた視野を持たないことはもはや危険であるとすら言うべきことが感ぜられた。

※倉部慶太氏からビルマ語の語形に関して以下のような教示をいただいた:「/nóʔòun/ (no¹ um) ‘breast’, /nó/ (no¹) ‘breast; milk’, /òun/ (um) ‘convex part of something’, // 内の音素表記は Kato, Atsuhiko. 2008. *Birumago hatsuonhyooki no ichirei* (An example of transcription of Burmese pronunciation). ms., () 内のビルマ語文語転写は Duroiselle, Charles. 1916. *Literal transliteration of the Burmese alphabet*. *Journal of the Burma Research Society* 6:81-90.に基づく。

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

英訳は Myanmar Language Commission ed. (2009) Myanmar – English Dictionary. Yangon: Department of the Myanmar Language Commission.に基づく。」

田口善久「ヤオ諸語における Milk」

中国南部及び西南部に分布するミャオ・ヤオ諸語が話される社会においては、動物乳の使用は基本的に見られない。したがって、子育てにおける母乳を指す語を取り扱う。比較言語学的に対応する語の中で、語族全体あるいは地理分布域全体を覆うような分布を見せる語は存在しない。ほとんどの言語が語頭（音節頭）子音に鼻音をもつ。この点は、接触する漢語と同じであり、その接触関係が推測される。また、資料の制約により確定できないものの、語の構成としては、単一形態素である語が「乳（液体）」と「乳房」の両方を意味し、前者を特定する場合には、「水」あるいは「スープ」を表す形態素を用いて複合語を作る、というのが基本的な方式であるように推測される。

Atsuko UTSUMI, Milk in Austronesian

オーストロネシア語族の居住地域では、ほぼ乳を加工したり生乳を飲む習慣が希薄である。従って家畜の乳を表す特別の語は使われておらず、「乳」は概ね「胸」を表す語と同一の形態を用いて表すが、「胸」と「水」を合わせた形も散見される。台湾諸語とオセアニア諸語に多くの変異が見られる。フィリピン諸語はココナツミルクと同じ語を母乳等の「乳」を表すのに用いるのが特筆すべき点であった。また、「血」を表す語とは全く異なる形を用いていることも確認された。

吉岡 乾“Riceplant” and “Milk” in South Asia

本発表では、南アジアを中心に話されている、インド・ヨーロッパ語族（インド・アーリア語派、イラン語派、ヌーリスタン語派）、ドラヴィダ語族、アンダマン語族、ブルシャスキー語、ニハーリー語、ヴェッダー語の「稲」ならびに「乳」についての語彙の拡がりを確認してまとめた。「稲」に関しては、印欧系の語彙 *vrihi* 「稲」、*taṇḍula* 「刈り取ってから簸ったけど脱穀していない穀粒」が広く見られ、ドラヴィダ系の *nell* 「稲」などがドラヴィダ以外の言語へ借用されている例は見られなかった。地域的には南アジア（ドラヴィダ語圏）の方が稲作が多いと思われるが、語彙の強さはそれとは異なっていたと言える。「乳」については、やはり印欧系の語根 *duh* 「搾乳する」に語源を持つ *dugdha* 「乳」や、*kṣīram* 「濃縮した乳」といった語彙が強く、印欧語以外への拡がりもよく見られた（前者は南アジア外の語族へも影響が及んでいる）。ドラヴィダ系の *pāl* 「乳」はやはり、語族の枠を出ることはなかった。これらの語彙分布を対比して観ると、南東インドが最もドラヴィダ以外の言語を借用しない地域であり、北東アフガニスタンと北西パキスタンの辺りがインド・アーリア語派とイラン語派とが双方向から衝突していて、ヌーリスタン語派もあるという、極めて複雑に入り組んだ様相を示し易い地域であることが窺えた。

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

長渡陽一，アラビア語の「ミルク」

遊牧民は、飼育する家畜の乳を利用するので、羊、ラクダの乳を利用しているが、都市部では一般的に牛の乳が利用される。遊牧民のアラビア語では、絞った後の発酵の段階などによって呼称が細分化されるが、都市部では生乳を *ħali:b* (*ħili:b*, *ħli:b*, *ħali:p*, *xlip* もある)、ヨーグルト（酸乳）を *laban* と言う。例えばシリアは *ħali:b* 「生乳」、*laban* 「ヨーグルト」。エジプトでは「生乳」に *laban* を使うが、搾りたてであることを強調するには *laban ħali:b* とする。*ħali:b* は、*ħalab* 「乳を搾る」の受動分詞形をしているが、他のセム語、ヘブライ語 *ħālāb*、シリア語 *ħalbā* など受動分詞形ではないので、名詞「乳」から動詞が派生したもので、アラビア語の語形は類推から形成されたのであろう。

白石英才～ニヴフ語における *milk*～

ニヴフは近隣のウイルトヤサハリンエヴェンキーと異なり牧畜文化をもたない。動物の「乳」を表す固有語はなく、ロシア語からの借用語である *malak* などが使われる。人間の母乳を表す語形は各方言に存在し、アムール方言とサハリン方言で語形が異なる。前者は「乳を吸う」という動詞から派生したと考えられる。

Tokusu KUREBITO は 2015 年度に扱った 3 つの単語を包括的に論じた。